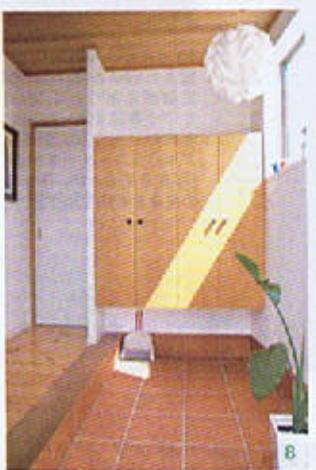




4.お気に入りのデザイナーズ家具や照明が空間を彩るLDK。窓はすべて高断熱のLow-E仕様で陽差しをカット。南側の窓が大きくて軒が深いので、太陽の位置が高い夏は陽差しをさえぎってくれる。



5.「Gくのフローリングは
素足に心地よく、冬は木の
温もりで暖かみを感じる」と
夫妻。LDからキッチン
が見えないように、キッチン
カウンターを高めに設定し、
生活感が出ないように
配慮した。6.造り付けの背面
収納はオリジナル。吊り
収納と下部収納の間は、電
子レンジなどの家電が収まる
高さにしてすっきりと



7.玄関ドアは断熱性のあるレッドシダーのむく材を使ったオリジナル。サイドの窓は、高断熱のLow-E仕様の複層ガラスを採用した



7



8.テラコッタタイルを張ったおしゃれな玄関。土台と基礎の間に換気を行ない、その上部に当たる三和土に断熱材を敷き詰めた



1.断熱材を敷き詰めた床の上には、足熱りのよい天然パインのむく材を張り、自然塗料を塗って仕上げた。天井の一部やキッチンカウンターにレッドシダーを張り、ナチュラル感を高めて。壁面のカウンターや下に設置したのが蓄熱暖房機。冬は遠赤外線で部屋をやさしく暖めてくれる

「どのかな環境で、子どもたちと一緒にゆったり快適に暮らしたい」とMさん夫妻は、開放感と過ごしやすさをコンセプトに家づくりを開始した。早速、設計担当者に相談すると、「建物の気密性や断熱性を高めておけば、大きな空間をつくっても、室温を均一に保ちやすく、夏も冬も快適で過ごしやすい」と聞き、「高気密・高断熱の家」をつくることにした。

完成した住まいは、「リビングをできるだけ広くしたい」という夫妻の希望を叶え、約25畳のLDK+和室を中心としたオープンなつくり。リビングに階段を配置し、階段前の間仕切り戸を開ければ、上下階も一体感のある空間となるようにした。また、「全居室を南側に配置した」というだけあり、どの部屋も、断熱性能の高いガラスをはめた大きな窓から、心地よい陽が入つて明るく、開放的だ。

Mさんは、天気のよい日は窓を開け、自然の風を感じながら過ごすそいで、子どもたちは家の内外をのびのびと遊ぶ。汗だくになれば窓を閉めてエアコンを使うが、「前の賃貸住宅では、エアコンを約18度に設定していましたが、今は部屋も広くなつたのに、26~27度ですぐ涼しくなります。エアコンを使う時間もぐつと減りましたね」と、想像以上の快適さと、省エネという思わずメリットに、夫妻は満足そうに笑つた。



CASE-02 岡山県・Mさん

高い気密・断熱性を活かして憧れの大空間を実現。 開放感とおだやかな四季の変化を愉しむ住まい

延床面積118.95m² 本体工事費1594万円



2.白いスチールが波打つようデザインされたリビング階段は、夫のお気に入り。
3.階段の手前に扉をつけて間仕切りを。閉めれば、2階にLDKの冷気や湿気がいかず、LDKを快適に保てる。階段のキッチン近くに取りつけた高窓を、テラキyaの窓と一緒に開ければ、心地よい風が通り抜ける